

しおんだより VOL.37



自立した日常生活を送れるように支援します

理学療法士を一言でいうならば動作の専門家です。寝返る、起き上がる、立ち上がる、歩くなどの日常生活を行う上で基本となる動作の改善を目指します。関節可動域の拡大、筋力強化、麻痺の回復、痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療法から、動作練習、歩行練習などの能力向上を目指す治療法まで、動作改善に必要な技術を用いて、日常生活の自立を目指します。

治療や支援の内容については、理学療法士が対象者一人一人について医学的・社会的視点から身体能力や生活環境等を十分に評価し、それぞれの目標に向けて適切なプログラムを作成します。

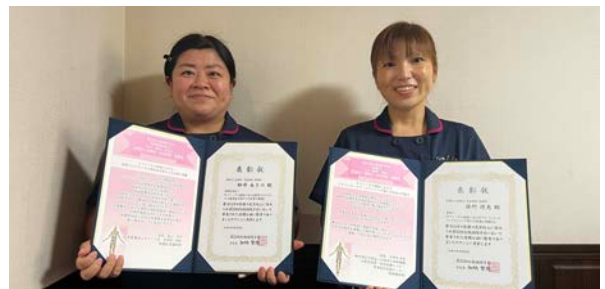
当院は、現在18名の理学療法士が在籍しており、医師から理学療法のリハビリテーションの指示が出された患者様一人一人に理学療法士がそれぞれ担当させていただきます。患者様それぞれに合わせて個別の理学療法を提供するために患者様、ご家族様からお話を伺い出来るだけ元の生活に戻って頂けるようにプログラムを作成します。具体的には、骨折により歩行能力が低下してしまった方には受傷前の歩行能力に近づくように関節可動域訓練、筋力増強訓練、歩行訓練を実施していきます。

患者様にとって入院生活は不安なことが多いと思われます。そこで我々はリハビリテーションを通じて患者様の入院生活、退院後の不安を軽減するための一助となれますように日々仕事に取り組んでいます。

大阪病院学会から、受賞者へ表彰状と記念品が届きました！

前号でもご紹介しましたが、10月8日に開催された第22回大阪病院学会で、2名の発表者が優秀演題をいただきました。

急性期病棟の柳井あきの副師長は、当院のような急性期、慢性期を持つ病院で、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ経験について、そして、外来の勝野理恵看護師は、当院におけるアドバンスケアプランニング（ACP）の導入に取り組んだ経験について、まとめました。



表彰状が送られてきました。左から柳井副師長（2F）と勝野看護師（外来）。

250を越える演題から49演題が優秀演題賞として選んで頂いたのですが、それぞれの演題について、座長の講評もいただき、とても励みになったことと思います。

毎日の業務に多忙ではありますが、その中で課題を見つけて検討し、発表していくということは、医療の質を上げるためにも重要だと思います。これからも、こういった学術活動を少しずつでも広げていきたいです。

今年は例年以上にあっという間に秋が過ぎ去ってしまいました

今年の夏は、暑かった…。そんな感想をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。猛暑、酷暑という言葉が本当にぴったりな期間が長く、私も、今年はとうとう日傘を購入しました。

10月に入っても暑い日があり、なかなか、夏が過ぎないなと思っていましたが、ちょっと涼しくなったと思ったら、今度は一気に寒くなり、今年の秋は例年以上に短い気がします。

秋の暮れ時には、当院5階から南港方面に沈む夕陽を病院から眺めることができます。私の高校は夕陽丘にあったのですが、同じ夕陽を見ながら「秋の日はつるべ落とし」なんて思っていたことを、ふと思い出しました。

（文責：狭間研至）



病院の5階のバルコニーからは、この季節、素晴らしい夕焼けを見ることが多いです。慌ただしく過ぎていく1日の終わりに、ホッと一息つく光景です。

しおんだより 第37号 発行日：令和5年11月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711

HP: www.shion-hp.or.jp